

2016年度10分FD成果報告

—授業評価アンケート組織的活用の取り組み—

2016年度、FD委員会は全学教務委員会と連携して2015年度授業評価アンケートの自由記述項目からテーマを選び、毎月の定例会議(教授会・学科会議)にて10分間、教員間で情報・意見交換を実施してきました。10分という限られた時間ですが、定例会議の時間を利用するため出席率は高く、また10分FDをきっかけに教員がお互いのノウハウを自由に披瀝しあう空気が醸成されつつあります。以下にその取り組みの成果をテーマ別に報告します。

授業評価アンケートにご協力いただいたすべての学生および教職員のみなさまに厚くお礼申し上げます。

2017年 3月 8日 教務部長 白石 英才

統一テーマ1 「私語の注意」：講義中にうるさい人がいて先生の声が聞こえないことがありました。そうした学生には退室を命じるなど、もう少し注意していただけないでしょうか。

- ・ うるさい学生がいたら「声が大きい学生がいるので、お話ししたいのかな?」といって3分くらい話し合いの時間にして区切っている。
- ・ 授業を聞かない学生は教室の後ろに集まることが多く、その場合は後ろに移動して話をしていた。
- ・ 多くない受講者数なので私語はもともと少ないが、私語をしている受講生にあえて話を振って授業に巻き込むことをしている。
- ・ 周りがうるさいと思った人は前方の席に座るように指示をする。

統一テーマ2 「板書の見やすさ」：黑板の字が小さく見えにくいときがありました。大きな字ではっきりと書いていただけないでしょうか。

- ・ 画面や黑板をスマホで撮影することを認めている。3割位は撮影しているようだ。きちんとノートを取らないと満足できない学生もいるようだ。
- ・ 以前「字が小さい」と言われたことがあったが、その学生は一番奥の遠い席に座っていたので座席を前にすることで解消された。
- ・ 板書もスライドも最小限にしている。大学を卒業して社会人になったときに板書してくれる人は誰もいない。聞いたことを自分で自分なりにまとめるのは大事な社会人スキル。それをこちらのねらいとして明確にすると、とくに板書に関して学生から要望は出ない。ただし、学生にメモを取りやすくする説明上の工夫は必要である(「〇〇には3つの要因があります。1つ目には…」といった話し方など)。
- ・ スライドを作って情報ポータルのカビネットに格納して、後で学生が全部見ることができるようにしている。
- ・ iPadを使ってそれをプロジェクターに投影している。スマートフォンのpaperというアプリなどは便利。
- ・ この問題は、後に座っている学生をどのように前に来させるかという問題である。前に来てもらえば黑板の字は見えるはずである。

統一テーマ3 「声の音量」：声が小さく聞きとりにくいことがあるので、マイクを使っていただけないでしょうか or マイクの音量が大きくなる感じることがあります。調整していただけないでしょうか。

- ・ 機器に問題がないのであれば話す側の個人差もあると思うので外部から講師を招いて話し方をレクチャーしてもらうのが良いのではないかと。また、最近は自動的に音量を調整するマイクや自動的に字幕をモニターに表示するソフトがあるのでそういったものを導入するのも良いのではないかと。
- ・ アンケートに「声が聞き取りづらい」というのが散見され、話すスピードをゆっくりにすることで対応した。
- ・ 声が小さな傾向があるので、とくにオープンキャンパスのときにマイク音量を大きくして使用する。
- ・ 声が大きくなりがちで学生がびっくりするのでマイクを極力使わないことにしている。
- ・ 受講生に「聞こえますか?」と聞いて確認している。

統一テーマ4 「講義スピード」：スライドが早いときがありノートとりが間に合いません。重要な情報は情報ポータルのカビネットにアップしていただけないでしょうか or ノートをとる終わる前に黑板が消されることがあります。重要事項はプリントにいただけないでしょうか。

- ・ スライドが早くてノートが取れないという意見があるがパワーポイントの内容を印刷することにより解決するのではないかと。
- ・ スライドを印刷してしまうと講義をきちんと聴かない学生がいるのであえて印刷をしていない。
- ・ 現在、何をしているのかを明示するようにしている。明示することで学生の理解につながるようになると思われる。
- ・ 視覚障害の学生にとって無音の時間、なかなか講義が始まらない時間があると現在何をしているのかわからず不安に感じることがある。「パソコンの起動に時間がかかっているので少し待ってください」など、現在何をしているのかという音声ガイドのようなものがあると不安感が軽減されるので実施している。また、パワーポイント(使用するスライド)のデータを当該学生に送る、拡大資料を作成するなど学生が授業についていけるように対応している。

統一テーマ5 「受講者への質問の投げかけ」：単々としゃべり続けながら説明しているので内容がわかりづらい。学生にもっと質問を投げかけ、説明もわかりやすい例を用いてください。

- ・ ツイッターを利用し、学生がいつでも質問をできるようにしている。
- ・ ミニレポートに質問を書いてもらい、次回の授業で答えるようにしている。
- ・ 答えられなくても良いとい前置きしてから、学生に質問を投げかけている。
- ・ マイクを2つ用意し、1つを学生に預けている。すると学生が必ず話さなければいけない状況になる。
- ・ 学生に答えを黑板に書かせる。
- ・ 毎回授業の終わりにリアクションペーパーを学生に記入させ、次回の授業で必要に応じてリアクションペーパーに関する回答や解説をおこなっている。
- ・ 履修している学生(70名程度)を幾つかのグループに分けて、グループ毎にディスカッションをする時間を設けて各グループに発表してもらっている。学生1人に質問をしても恥ずかしくて回答を拒否するケースが多いが、グループ単位だと個人の意見・見解ではないため学生も発表してくれている。解説ばかりの授業だと、居眠りする学生が出てくるので双方向での授業運営は重要である。

統一テーマ6 「受講生への課題の返却」：小テストなどのプリント課題は返却していただけないでしょうか。

- ・ プリント課題は返却している。資料が多い場合には事務担当者に依頼して整理してもらっている。
- ・ 採点して、学生に教育支援課窓口で返却している。学生は自分の点数を知りたいという希望を強く持っている。
- ・ 70名程度受講者がいる講義において、プリント課題を配布、受講生は各自課題に取り組み、次の講義で提出させ、後日、解答とともに課題を受講生に返却している。
- ・ 10分程度の小テストを講義期間中に3回程度行っている。小テストは採点し、学生に返却している。
- ・ 小テストは次回までに必ず採点して返却している。そうすることで、授業がスムーズに進む。しかし、多人数講義である場合は難しい。
- ・ 人数が多い講義で、提出があったリアクションペーパーに対し、希望者のみ学習相談を行った。できるだけ多くの学生にフィードバックしたいので、書くよりも口頭の方が早いと考え、このような方法を取った。